

大学のグローバル化をめぐる 昨今の変化と現状の課題

留学生の図書館活用の現状と将来展望

京都大学国際交流センター

森 眞理子

河上志貴子

京都大学のグローバル化の現状

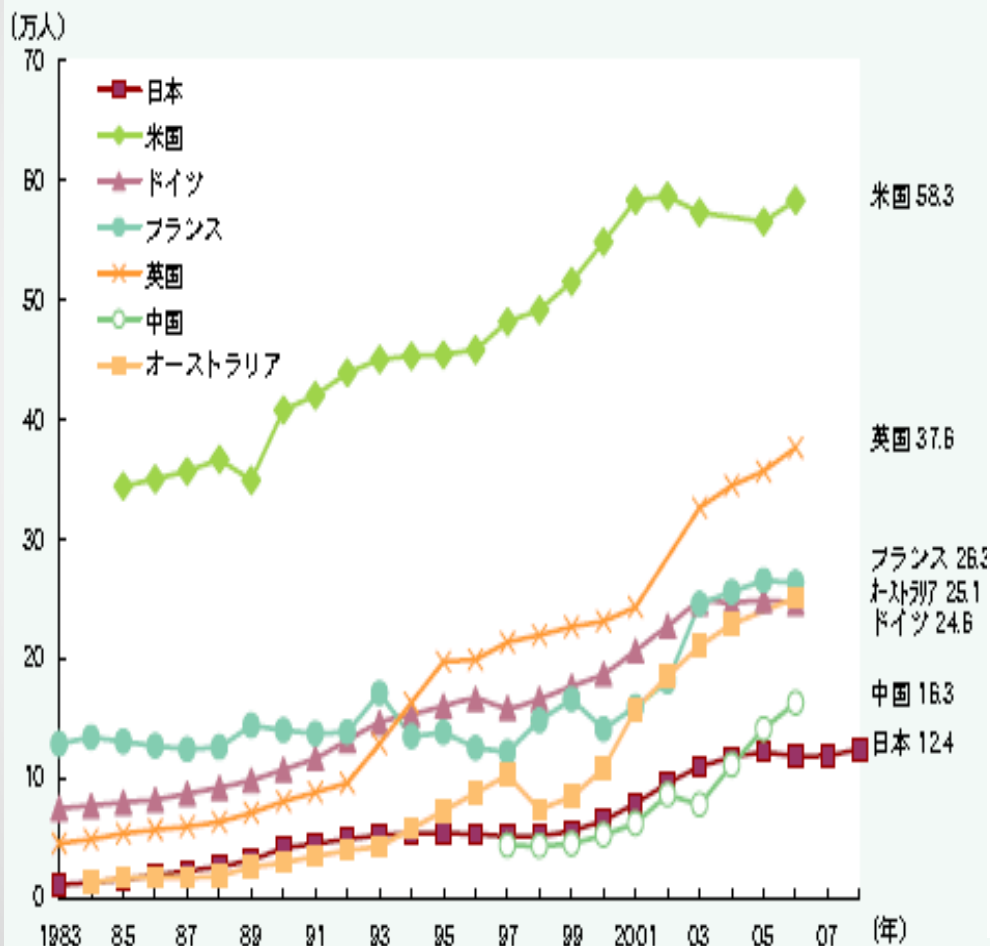
1) 留学生受け入れの変化

最近5年間で、アジア人財構想・G30・世界展開力などの施策により留学生受け入れの増加と質的な変化が起こっている。

2) 日本人留学生派遣の増加政策

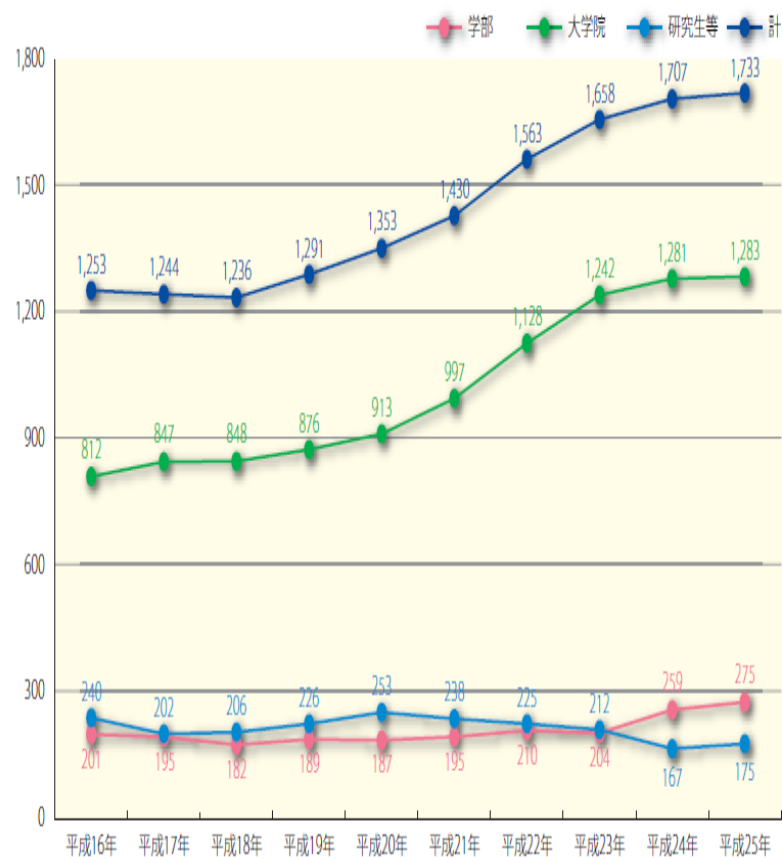
グローバル人材育成の重要性から日本人学生を学部生のうちから海外に留学させる動きが活発化している。

世界の留学生受入推移



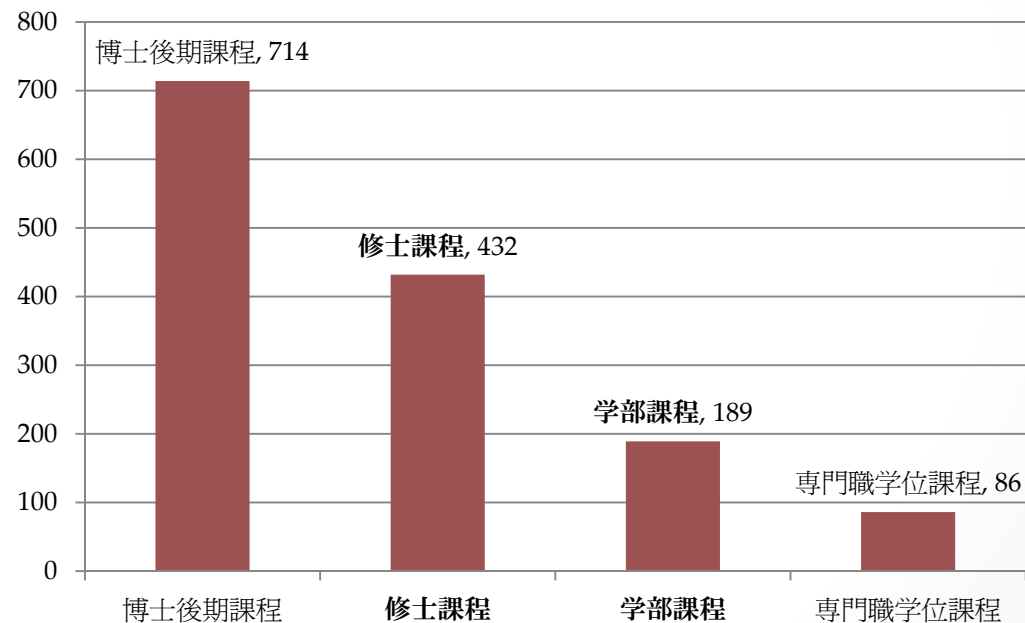
京都大学留学生受入

外国人留学生受入数の推移

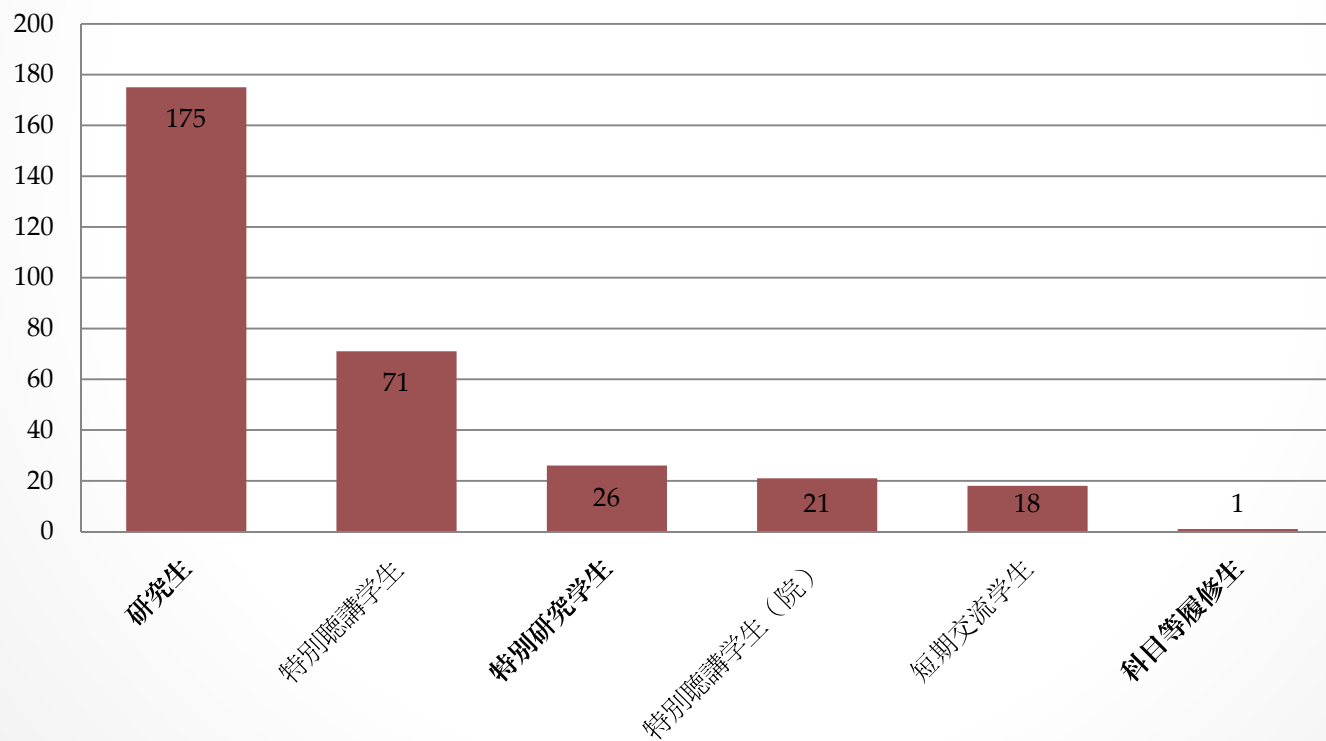


受入れ留学生数 1733名 2013年5月現在

- 正規（学位取得型）留学生（1418名）

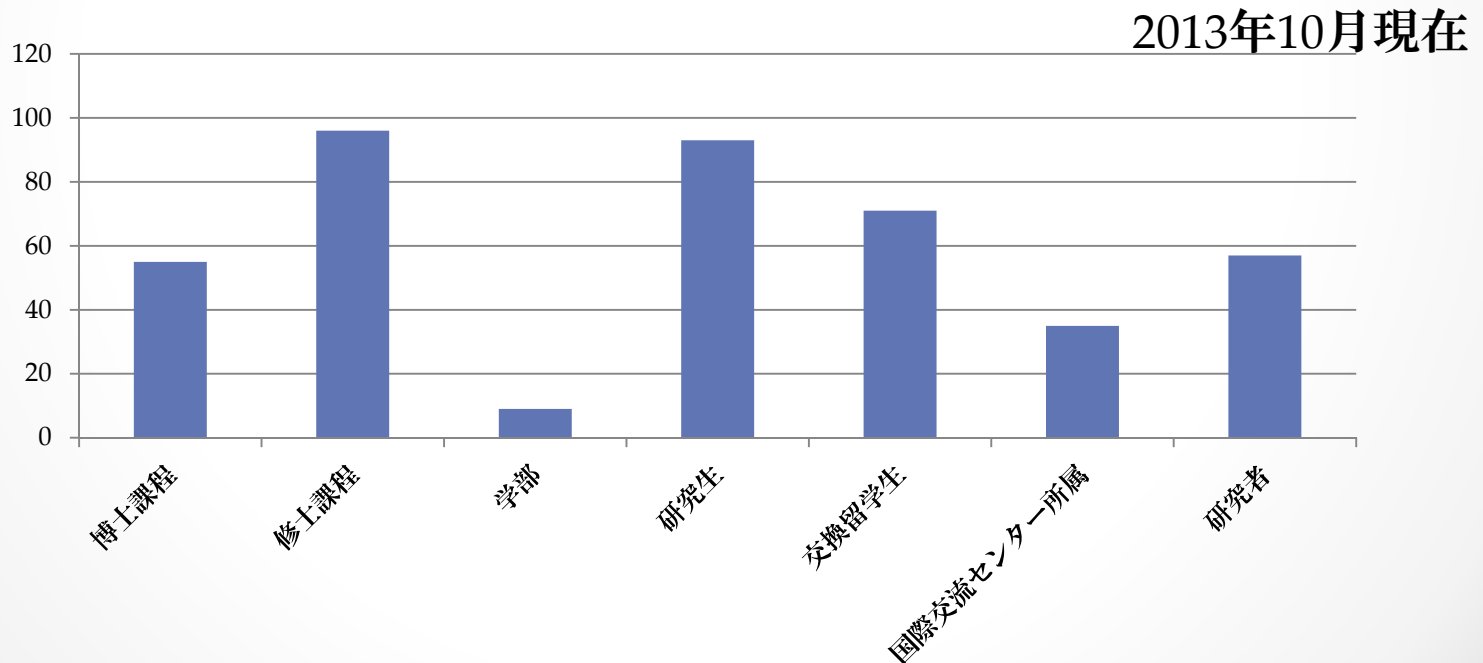


- 研究生・交換留学生等 (312名)



外国人留学生と 日本語・日本文化教育

- 每期400名以上の受講生が日本語を受講している。
全学受け入れ留学生とは分布が異なる。



国際交流センター日本語・日本文化教育

6レベル設定

①初級Ⅰ完全初級者向けクラス（L5）

②初級Ⅱ日本語クラス（L4）

- ・ 4-5ヶ月の日本語学習修了者向けクラス

③中級Ⅰ日本語クラス（L3）

- ・ 初級課程修了者向けクラス

④中級Ⅱ日本語クラス（L2）

- ・ 大学生活上の日本語能力養成クラス

⑤中級Ⅲ日本語クラス（L2~L1）

大学での学修上の日本語能力養成クラス

⑥上級日本語クラス（L1）

- ・ 大学での研究上の日本語能力養成クラス

国際交流センター日本語・日本文化教育

横断型日本語学習支援

- ビジネス日本語コース

日本で就職希望の正規学部・大学院留学生対象のビジネス会話・文書作成等演習コース

- 遠隔日本語講座

遠隔講義システムにより吉田キャンパスと宇治・桂キャンパスを結ぶ日本語授業開講準備

- 日本語e-ラーニング「さみどり」

教材開発及びコンテンツ・マネージメント・システムを利用した自主学習の環境整備

京都大学の学生派遣

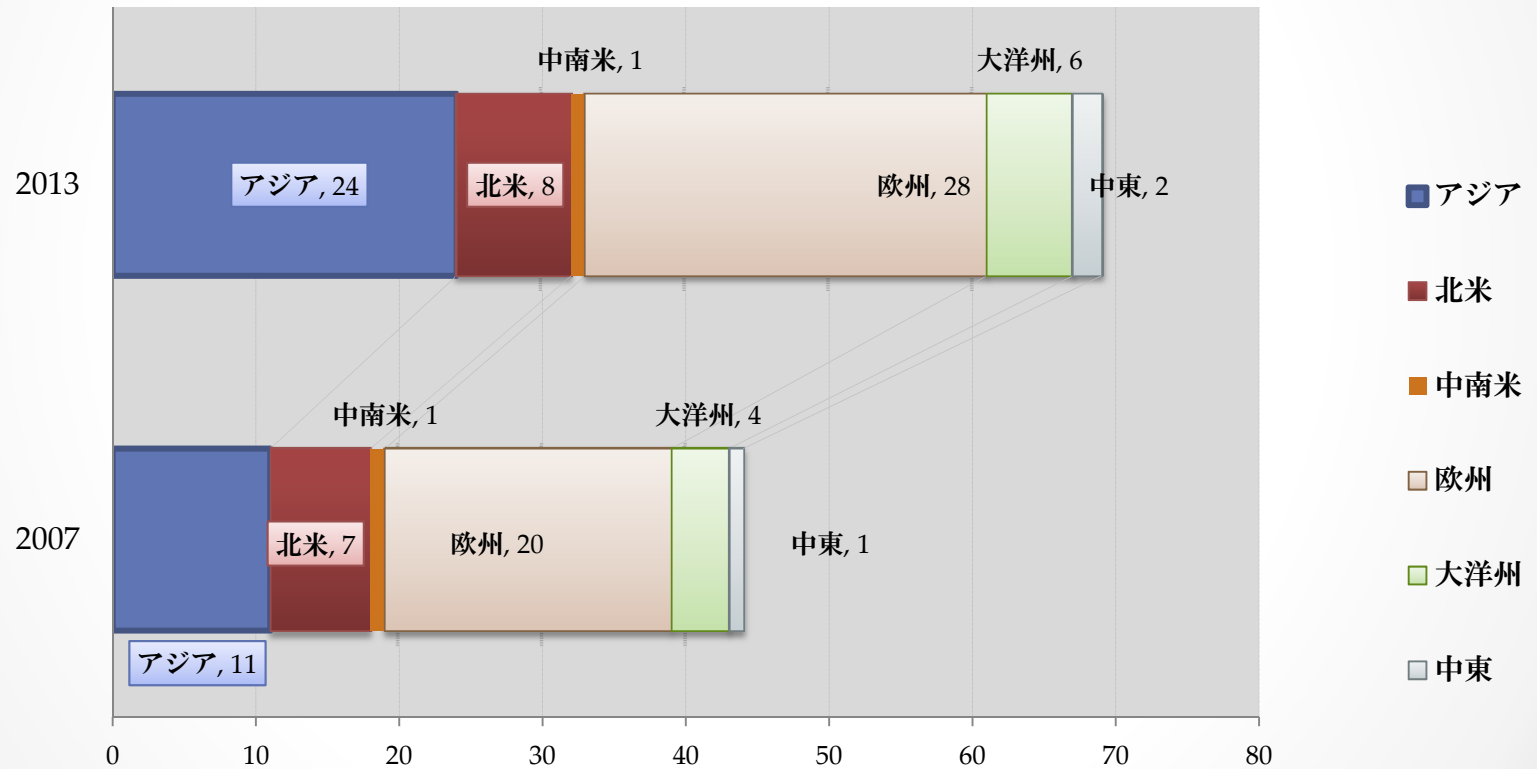
- 長期留学制度（1年以上）
- 協定校に学生を送る交換留学制度（一年/6か月）
- 春・夏休暇に語学研修を主とした短期留学プログラム
• （2週間～4週間）
- 日本再発見SENDプログラム（2週間～3週間）

学生交流協定校一覧

2013.12現在

1	中国	復旦大学	23	台湾	国立台湾大学	47	オランダ	ライデン大学
2		香港科学技術大学	24		国立清華大学	48		ユトレヒト大学
3		香港大学	25	ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校	49	フィンランド	ヘルシンキ大学
4		香港中文大学	26	トルコ共和国	コッチ大学	50	スウェーデン	ストックホルム王立工科大学
5		南京大学	27	オーストラリア	メルボルン大学	51		ストックホルム大学
6		北京大学	28		ニューサウスウェールズ大学	52	ウブサラ大学	
7		清華大学	29		クイーンズランド大学	53	スイス	ローザンヌ大学
8		中国科学技術大学	30		シドニー大学	54	連合王国	マンチェスター大学
9		武漢大学	31	オーストラリア国立大学	55	シェフィールド大学		
10		浙江大学	32	ニュージーランド	オークランド大学	56		パーミンガム大学
11		上海交通	33	オーストリア	ウィーン大学	57		ニューキャッスル大学
12		西安交通大学	34	ベルギー	ルーバン・カトリック大学	58		エジンバラ大学
13	イスラエル	テルアビブ大学	35	フランス	グルノーブル大学連合 (Universite Pierre Mendes-France, Universite Standhal)	59		ブリストル大学
14	大韓民国	高麗大学			(スタンダール大学)	60		サウサンプトン大学
15		慶北大学			(グルノーブル理工科大学)	61		ケベック州大学学長校長協議会
16		浦項工科大学	36		ストラスブール大学	62	カナダ	トロント大学
17		ソウル大学校	37		エコール・ノルマル・シュペリ ウル	63	ウォータールー大学	
18		延世大学	38	パリ政治学院	64	メキシコ	グアダラハラ大学	
19	シンガポール	シンガポール国立大学	39	ドイツ	ベルリン自由大学	65	アメリカ合衆国	ジョージワシントン大学
20	タイ	チュラロンコン大学	40		フンボルト大学	66		ハワイ大学マノアキャンパス
21		カセサート大学	41		ミュンヘン大学	67		ペンシルバニア大学
22	タマサート大学	42	ハイデルベルク大学		68	ワシントン大学		
締結予 定	インドネシア	ガジャマダ大学	43		ミュンヘン工科大学	69		ウィスコンシン大学マディソン 校
			44		ボン大学			
			45		ゲッチンゲン大学			
			46		カールスルー工科大学			

京都大学の学生交流協定締結校数推移



学生派遣の推移

年度		2006	2007	2008	2009	2010	2011		2012
北米		7	9	15	17	11	13		11
中南米		－	－	2	0	0	0	<	2
欧州		25	25	24	16	28	41		31
中東		－	－	1	0	0	0	<	1
オセアニア		4	1	2	0	1	2	<	11
アジア		3	4	7	4	8	11	<	23
アジア内訳	中国（香港を除く）	－	1	0	1	2	0	<	7
	香港	－	0	1	0	2	4	<	6
	台湾	0	1	2	1	2	1	<	2
	韓国	1	0	3	0	0	2	<	3
	東南アジア	2	2	1	2	2	4	<	5
交換留学による送出し合計		39	39	51	37	48	67	<	79
参考：交換留学による受入れ合計		53	59	76	88	92	80		127
参考：交換卒（人数）		88	108	124	130	129	155		163

短期派遣プログラムの多様な形

短期派遣による将来の留学への動機付け

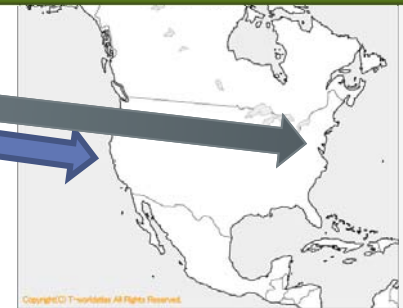
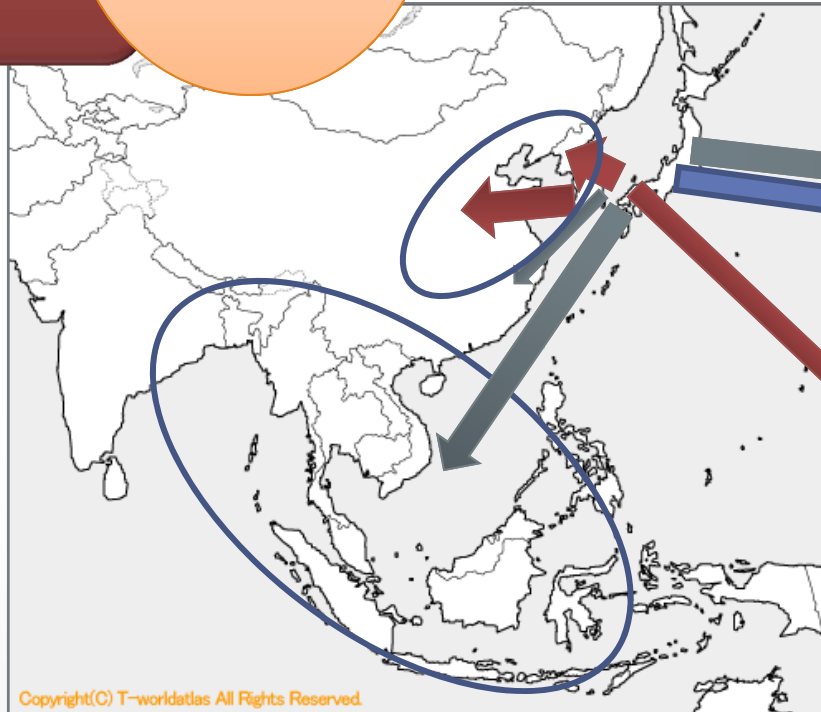
海外語学研修

豪州
中国
台湾
韓国

国際交流科目
SENDプログラム
Washington DC
プログラム

米国
中国
ベトナム
タイ
インドネシア
ブータン
メコン

海外インターンシップ研修



(年)



派遣留学生と英語教育・多文化教育

- 外国語能力（英語能力）の向上
その他の第二外国語への取組みも強化が必要
- 国際インターンシップへの参加
- 日本人学生の日本文化再発見の機会提供
京都大学の講義の中で留学生と日本人学生との共学・
討議の場を設ける。
- ITを使ったMooocsなどの講義参加

京都大学の国際戦略 2 by 2020 (Double by 2020)

教育－世界に通用する国際力豊かな人材の育成

学生の海外留学者数の増加

中長期留学235人→600人、短期留学544人
→1,000人

学生の英語能力の強化

TOEFL iBT80点以上取得学生比率 50%以上

国際インターンシップの推進

国際機関・海外事業会社等への派遣先開拓

留学生の質保証と受入数・地域の増加

学位取得・コース認定型 1912人→4000人
受入交換留学生数 170人→300人

全学共通科目・専門科目の英語による講義の増加・充実

英語による実施率 5%→30%

ICTを活用した英語による講義

遠隔講義やMOOCsの活用

系統講義「京都で学ぶ日本学

日本・アジアを京都で論じる系統講義
留学生と日本人学生がともに学ぶ

留学生ラウンジ「きずな」



きずな



学生による「きずな」利用

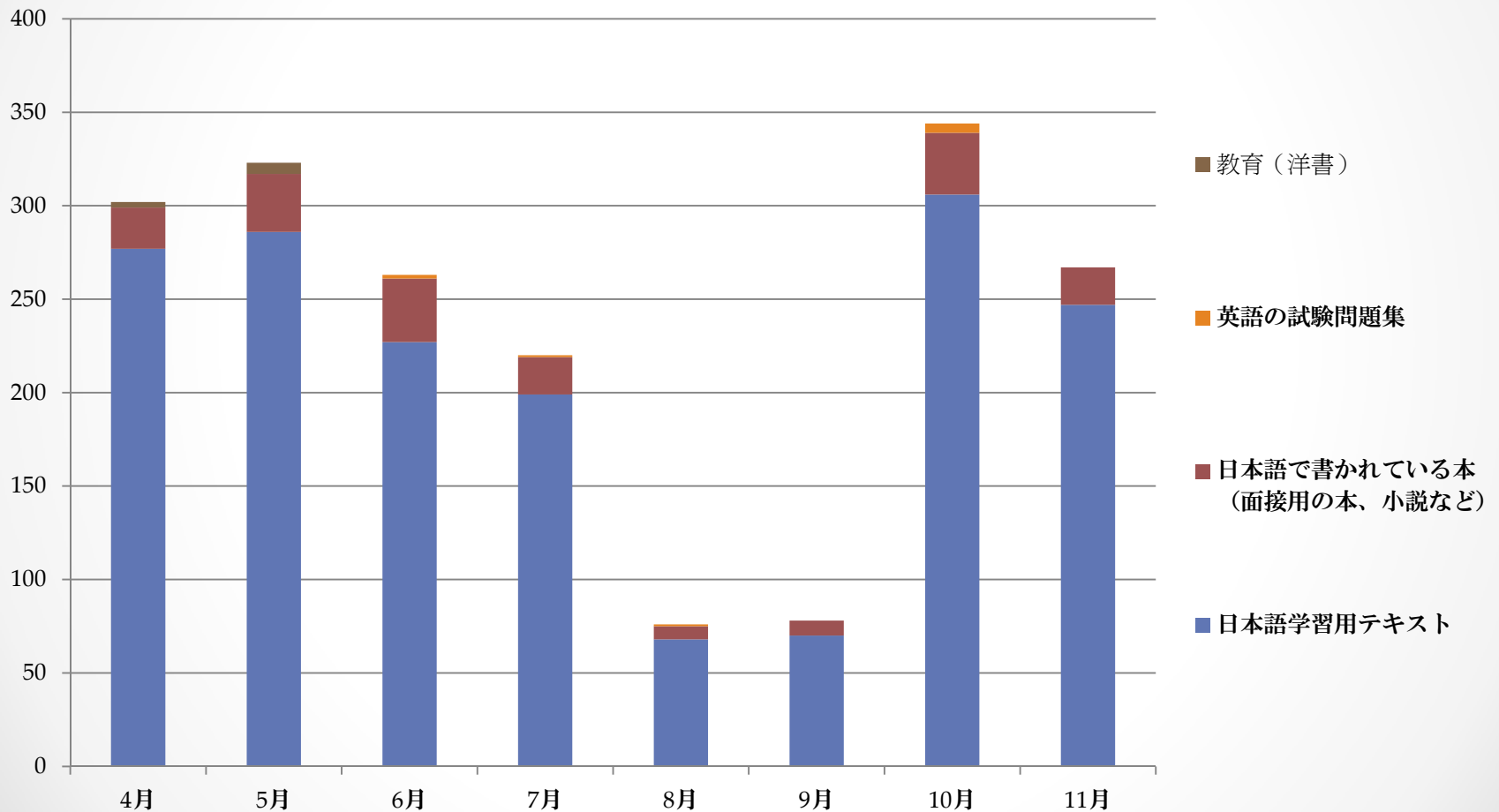
- 留学生と京都大学学生の交流の場
- 留学生の図書利用
- 留学生の学習の場
- 留学生の生活サポートの場

「きずな」の図書

- 留学生の日本語学習テキスト
- 英語講義のための参考文献
- 日本文化紹介書
- 海外留学案内書
- 日本映画・日本紹介DVD

「きずな」 図書の利用状況

2013年4月～11月



留学生の本学図書館の利用状況

調査対象：

国際交流センター日本語授業受講者 17人

- **身分**

短期交換留学生：8人（全員学部生）

研究生：8人 Post-Doc：1人

- **分野**

文系：11人 理系：5人 教員研修：1人

- **地域**

アジア：6人 アフリカ：2人 欧州：6人

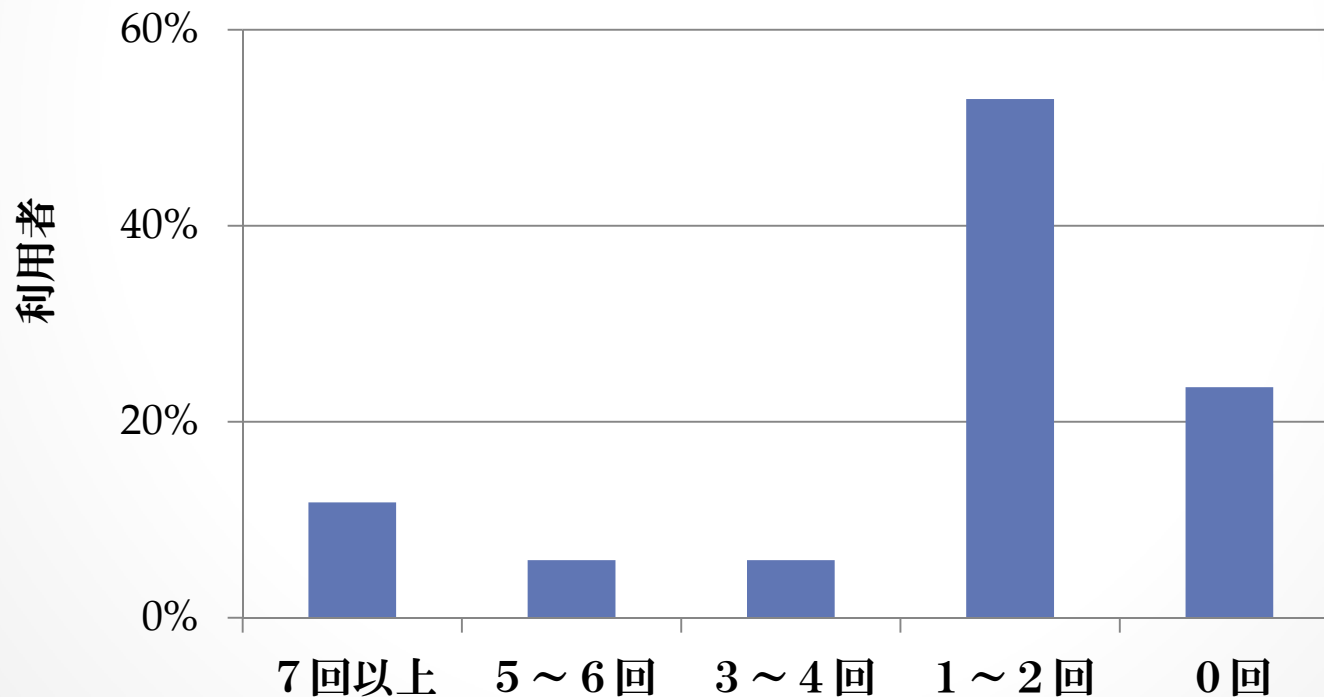
大洋州：1人 中東：1人 北米：1人

本学図書館の利用頻度

附属図書館・各図書室 利用頻度

利用者： 本調査対象国際交流センター日本語授業受講者 17人

期間： 本学在籍期間中



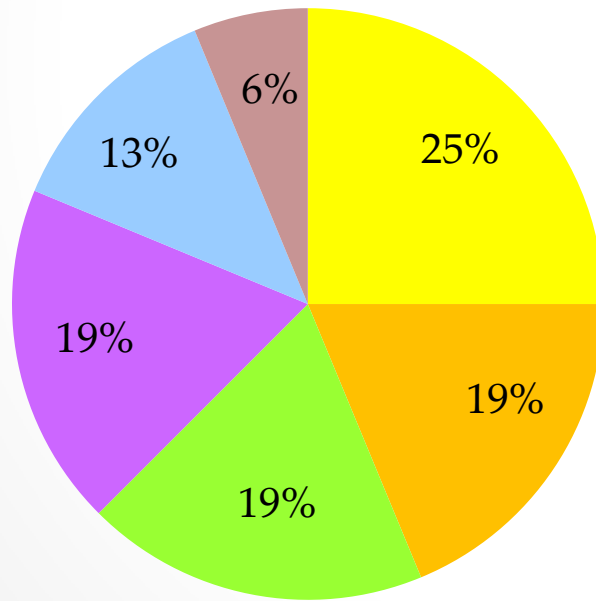
本学図書館の利用目的

附属図書館・各図書室 利用目的

利用者： 本調査対象国際交流センター日本語授業受講者 17人

期間： 本学在籍期間中

(複数回答可)



- 図書館カード申請のため
- 研究のための文献調査
- 個人の勉強の場として
- PC/プリンター等の利用のため
- レポート作成のための文献調査
- 研究会の場として

本学図書館利用状況の傾向

- **理系の学生**

- E-ジャーナル等を利用することが多いため利用頻度が低い
- 研究室等が遠隔のため利用しにくいというケースも見られる（例、サテライト・キャンパス）

- **文系の学生**

- 利用頻度が比較的高い

- **短期交換留学生（学部生）**

- 利用頻度は低いが、レポート作成のために利用したことのある学生は多い

附属図書館

サービス・施設の利用状況

利用者： 本調査対象国際交流センター日本語授業受講者 17人
期間： 本学在籍期間中
(複数回答可)

- ・ 留学生対象附属図書館オリエンテーション 12人
- ・ レファレンス・デスク 0人
- ・ 留学生対象サポート・デスク 0人
- ・ 附属図書館のツアー（留学生対象） 1人
- ・ オリエンテーションや説明会に参加したことはないが、機会があれば参加したい 6人
- ・ サポート・デスクを利用したことはないが、あることは知っている 7人

留学生・外国人研究者のニーズ①

(本調査における自由回答による)

情報提供

- もっと英語による情報がほしい。
- オリエンテーションや説明会等に関する案内・広報を増やしてほしい。
- 英語で行われている留学生対象のツアーがとても役に立った。

蔵書

- E-journalsやE-booksを増やしてもらえるとありがたい。

留学生・外国人研究者のニーズ②

(本調査における自由回答による)

施設・設備

- 電源コンセントを増やしてもらえるとありがたい。
- 附属図書館は静かで快適。勉強しやすい環境。プリンターなど設備が整っている。
- 個人の勉強の場としてとてもよいと思う。ただし、グループで勉強や討議できるスペースがやや限られている。「Study Room 24」の週末の利用時間が短い。

利用資格

- 身分によっては利用できない図書室がある。
結局、出身大学のオンライン・ジャーナルを今でも利用している。

検討課題・今後への期待

情報提供

- 図書館・各図書室サービス内容に関する情報提供
例) 各図書室の所在地に関する詳細な情報、
オリエンテーション等の開催、KULINEへの入口を分かりやすくする

検索方法

- 第一歩だけでも分かれば違う
- KULINEの存在は意外と知られていないようである（特に交換留学生、新規留学生の場合）
- 欲しい本が見つからない時は？ → フローチャートなどがあるとよい

検討課題・今後への期待

図書・ジャーナル等

- 英語による専門書等は充実してきている
- 英訳本？日本語学習図書・教科書？
- 留学生ラウンジ「KIZUNA」の図書利用
- E-books, e-journalsの提供

図書等の適切な利用

- 著作権への認識、剽窃の問題、
図書等の内容の吟味
→ 教育がカギ

検討課題・今後への期待

- 図書等の利用の簡便化は大いに歓迎される
- ただし、同時に、正しい利用方法があること、
図書（館）の利用はあくまでも特権（privilege）であつて、権利（right）ではないことを理解する必要がある
- 学生・教員・研究者全員の責任